

「分科会」の設立について

会長 村川治彦

本学会は今年設立から15年を迎えますが、本学会が設立当初から推進してきたスピリチュアリティやアウェアネスの研究が、近年日本社会の様々な領域で注目を集めるようになってきました。また他の学会でもこうしたテーマが取り上げられるとともに、関連する研究会や学会もたくさん設立されています。

これらの動きは、東日本大震災を機に起きつつある日本社会の根本的な変革につながるものだと思います。しかし、そうした変革が実現されたためには、この関心が一過性の表面的な出来事ではなく、根本的な意識の変革という大きな潮流として有機的につながったものであるという認識が共有される必要があると思われます。

本学会を創設された安藤治先生が示された本学会の設立趣旨には、トランスパーソナルという概念がまさにそうした役割を果たすことであることが次のように明確に示されています。

大きな時代の転換期のなかで新たに浮上りつつある人間の意識の変化は、トランスパーソナルという概念と深い関連をもつものであり、それらを積極的に取り上げることは大きな価値をもつ。その中心的課題としては、西洋近代科学と東洋哲学や宗教との対話・そして統合への努力、多文化間の対話、霊性と宗教、霊性と現代社会、地球規模の危機への反応、これらに関わるオルタナティブの模索、現代思想におけるトランスパーソナル理論の位置づけおよび従来の諸学問との関係や対話に関する研究などが挙げられる。

そして、こうしたビジョンのもと、本学会は以下のような研究を推進することが主要目的であることが謳われています。

新たな現代的・科学的観点に立って心理学的・精神医学的研究の推進を図ることが本学会の主要目的の一つである。研究の視野は、身体技法や諸種の東洋的意識鍛錬実践を含めた新たな心理療法に関する臨床的・理論的研究、人間の変容と治癒に関する研究、心理学諸派の理論や実践との比較・統合的研究（とくに人間性心理学およびユング心理学との対話）、心理学および心理療法と宗教（とくに仏教）との関係に関する研究、創造性や芸術の心理療法的意義に関する研究、臨死状態やターミナルケアなどに関する研究の領域にも広がりをもっている。

そこで本学会では、「人間の成長発達と潜在的可能性についての心理学的・精神医学的研究を推進し」、「新たな世界観を構築していく」という共通のビジョンのも

とに、理事のみなさんが関心を抱かれている、あるいはすでに活動を行っていらっしゃる研究領域に関する分科会を設け、本学会に集われる会員のみなさんの相互交流や新たな学び、繋がり場としていきたいと思っております。この分科会活動を通して、本学会が日本社会の大きな時代の転換期のなかで新たに浮上しつつある人間の意識の変化を推進する HUB としての機能を果たしていけることを願っております。